

Do you know “Captive” or “Rent a Captive” ?

キャプティブやレンタキャプティブをご存じですか？

「知らないと損をする」とよく言われますが、キャプティブやレンタキャプティブも日本企業経営者にとってその一つではないでしょうか。この情報過多の中にあって、世界で5,000社を超える企業が活用しているこの仕組みを、日本企業ではグローバル大企業ばかり僅か100社弱程度にしか活用されていません。何故でしょうか？それはとりもなおさず、日本の国内保険会社がキャプティブの設立およびその活用に対して「収益性や保全面への配慮から概して消極的・後ろ向きの姿勢」で推移してきたからです。加えて、日本企業の経営者は、欧米の経営者に比してリスクマネジメントに関心が薄いといわれていますが、そのことが凶らずも日本国内保険会社の“キャプティブに対する後ろ向きな姿勢”を擁護・協力していることに繋がっているといっても過言ではないでしょう。

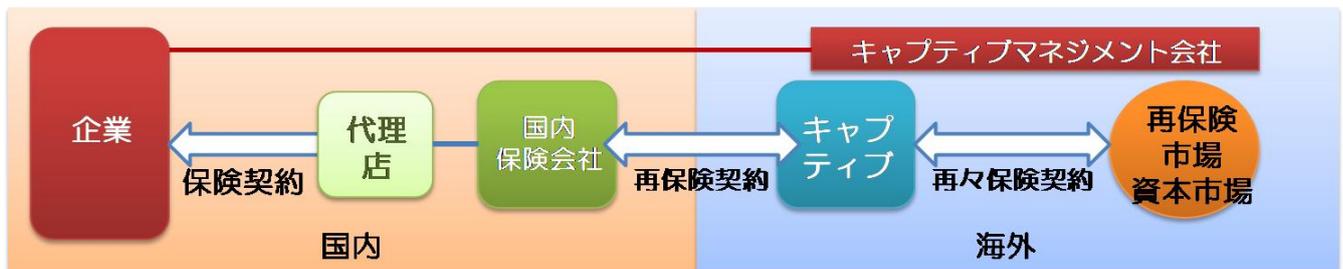
保険の自由化後、過去と同じ理由で保険会社を選びつづけていませんか？

日本での保険自由化が1997年に始まり、はや13年が経とうとしていますが、日本企業による保険会社選択の主要因は、相変わらず、①株主保険会社②子会社保険代理店に協力的保険会社③取引関係のある保険会社等と、保険自由化前の“護送船団時代”（保険会社21社体制）の考え方を継続していませんか？欧米の企業が当然としている「顧客の意向に沿った保険内容・サービス体制」等を保険会社選択の主要因とし、保険自由化の享受と自らの企業経営にとってメリットが大きく、世界では当たり前になっている「キャプティブ」「レンタキャプティブ」の仕組み優位性の活用に関心を向けようではありませんか・・・。

【キャプティブ、レンタキャプティブを利用するメリット】

1. 独自のリスクマネジメント・保険プログラムの構築・実施が可能です。
2. 保険コストの節減、安定化を図る事が可能です。
3. 国際保険市場への直接のアクセスが可能です。
4. 効果的な損害準備金の積み立て（自家保有の代替手法）が可能です。
5. 保険購入が困難なリスクへの対応が可能です。
6. 保険事業からくる利益・運用益の取得が可能です。

【図：キャプティブ保険会社のしくみ】



キャプティブとは、企業や組織団体が自社または自社グループの保険を専門に受ける事を目的として、企業や組織団体自らが海外に設立する「再保険会社（キャプティブ）」です。国内の引受保険会社は、その企業から引き受けた保険契約の一部を企業が設立した海外（バミューダ・ハワイ・シンガポール・ミクロネシア等）のキャプティブに再保険します。再保険を引き受けたキャプティブは必要なリスクヘッジ（再々保険）を手配します。それらの保険契約の事故が少なければ、企業が設立したキャプティブには、利益が発生します。

また、キャプティブはリスク・マネジメントに大変有効な手段ではありますが、企業が海外に子会社（キャプティブ）を作ることは資本金等企業規模によっては大きな負担となります。そこで、キャプティブを自前で設立するかわりに、すでに設立済みのキャプティブの議決権のない優先株を購入することにより、そのキャプティブ機能を有する再保険の部屋（セル）を借りることで、容易に同様の効果が得られる「レンタキャプティブ」の道も開かれています。

銀泉グループでは、バミューダにGinsen Re Insurance Corporation（GRC=レンタキャプティブ）を有しています。最適リスクファイナンス手段としてお気軽にご相談ください。

【ニュースに関するお問い合わせ先】

銀泉リスクソリューションズ(株) E-mail/ solutions@ginsen-risk.com

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-9-14 TEL03-5226-2301 FAX03-5226-2609